

母子保健 (記事ID 1100)

HPを見る

予防接種 (記事ID 1192)

HPを見る

成人健診 (記事ID 1197)

HPを見る

内容(予は要予約)	とき		対象(対は対象)
親子健康手帳交付	15日(金)	9:45集合	妊婦
	26日(火)	13:30集合	
パパママ教室(1回目)	15日(金)	10:30~11:30終了	主に妊娠6か月ごろまでの初妊婦とその夫
予 パパママ教室(2回目) ※予約は土日のみ	17日(日)	9:15受付~11:30終了	主に妊娠7か月以降の初妊婦とその夫
予 妊婦訪問	訪問は予約制です。 (希望者は保健センターへ連絡してください)		妊婦(訪問は妊娠中1回)
こんにちは赤ちゃん訪問	3~4か月児健診受診前		すべての赤ちゃんとその保護者 (里帰り出産で市内滞在中の人も対象となります)
転入者予防接種等説明会	19日(火)	10:00集合	主に7歳未満の子がいる転入世帯 (健康推進課窓口等で転入手続きした人を除く。)
のびのび計測日*1	保健センター	19日(火)	未就園児 ※1医師の診察はありません。 持 親子(母子)健康手帳・乳児の場合はバスタオル
	上郷児童館	20日(水)	
予 離乳食教室	1日(金)	10:00~11:30	主に第1子(4~5か月)をもつ保護者(乳児同伴可)
予 妊産婦歯科健康診査	予約してから、市内委託医療機関で受診してください。		妊婦と産後1年未満の産婦
BCG接種	8日(金)	9:15~10:15受付	H29年6月16日~H29年6月30日生
	26日(火)		H29年7月1日~H29年7月15日生
予 B型肝炎 予 ヒブ、小児用肺炎球菌 予 4種混合、不活化単独ポリオ 予 麻しん・風しん混合、麻しん単独・風しん単独 予 水痘 予 日本脳炎 予 二種混合 予 子宮頸がんワクチン	医療機関で接種してください		対 生後1歳未満
			対 生後2~60月に至るまで
			対 生後3~90月未満
			対 第1期:生後12~24月未満 第2期:小学校入学前の1年間
			対 生後12~36月未満
			対 1期:生後6~90月未満、2期:9~13歳未満 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり
			対 小学6年生
		対 小学6年生~高校1年生の女子	
厚生労働省の勧告を受け、積極的な接種の勧奨を一時的に差し控えています。			
予 子宮検診	20日(水)、21日(木)		20歳以上の西暦奇数年生まれの女性 (昨年度受診していない西暦偶数年生まれの方も可)
予 個別子宮検診	2月28日までに市内委託医療機関で受診してください。		
予 乳腺検診	11日(月)、12日(火)		40歳以上の西暦奇数年生まれの女性 (昨年度受診していない西暦偶数年生まれの方も可)
予 39歳以下健診	4日(月)		16歳から39歳の人
予 歯周病検診	1月31日までに 市内委託歯科医院で受診してください。		20歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、 55歳、60歳、65歳、70歳、75歳の人
体成分分析装置測定会	随時(時間は要相談)		市内在住の人

納期限(12月25日)までに納めてください

税目	納期	問合先
固定資産税	第3期	収納課 ☎56-0610
国民健康保険税	第8期	
介護保険料	第5期	長寿課 ☎56-0613
後期高齢者医療保険料	第6期	保険医療課 ☎56-0617

口座振替の人は、納期限の日に引落しますので残高を確認してください。納付は便利な口座振替を利用してください。

休日・夜間診療案内

日進市休日急病診療所  
☎73-7555 (記事ID 1197) HPを見る

診療時間	9:00~16:30 (昼休憩1時間あり)	年末年始も診療を行います。
診療科目	内科・小児科	
所在地	日進市蟹甲町中島22 (中央福祉センター内)	

夜間の急病・ケガは下記に問い合わせを  
救急医療情報センター ☎82-1133

愛知医科大学病院 時間外診療  
救急でかかりつけ医が開いていない場合、診療を受けることができます。まず、電話で相談してください。☎62-3311(代表)  
なお、時間内、時間外問わず、紹介状なしで受診する等の場合、選定療養費(5,400円)が必要になることがあります。詳しくは愛知医科大学へお問い合わせください。

年末年始の歯科医療

愛知歯科医療センター  
問 ☎052-962-9102  
時 12/29(金) 9:00~11:00  
12/30(土)~1/3(水) 9:00~11:00、13:00~15:00  
場 名古屋市中区丸の内 3-5-18  
愛知県歯科医師会館 1階  
あいち口腔保健センター内

ドクターからあなたへ インフルエンザワクチンと妊婦

図書館通おかもとマタニティークリニック 岡本俊充医師

インフルエンザ流行の季節となりました。インフルエンザワクチンの有用性についてお話させていただきます。ワクチンには、弱毒生ワクチンと不活化ワクチンの2種類あり、不活化ワクチンは胎児に影響することなく妊婦に接種可能です。インフルエンザワクチンは、この不活化ワクチンに分類されます。

インフルエンザワクチンを接種すると体内に抗体といわれる物質が作られ、これはウイルスに抵抗力を示し、インフルエンザウイルスから身体を守ってくれます。

妊婦では、この抗体は胎盤を通して胎児に移行します。

移行抗体と呼ばれるものです。つまり、妊娠中にインフルエンザワクチンを接種すると、胎児はインフルエンザに対する抗体を母親よりもらい受け、インフルエンザに抵抗力をもった赤ちゃんとして生まれてくることになります。

妊娠中にワクチンを接種することは、お母さんだけでなく、赤ちゃんにも有用性が高いのです。当然のことですが、赤ちゃんに接する家族の方もインフルエンザワクチンを接種し、家庭にインフルエンザを持ち込まないことも大切なことです。